

17

1994.7

LET'S PLAY

Indiaca



Japan Indiaca Association ● 日本インディアカ協会

1994年度
事業計画

1994年インディアカ各種大会

- 第17回全国インディアカ大会
(第48回全国レクリエーション大会)
9月24日 島根県松江市
- 第7回スポーツ・レクリエーション祭インディアカ大会
11月13・14日 福岡県北九州市
- '94オールジャパンレディースインディアカ大会
9月10・11日 埼玉県秩父市
- 東北ブロックインディアカ大会
9月17・18日 山形県厚生年金休暇センター
- 関東ブロックインディアカ大会
3月11・12日 千葉県八千代市市民体育館
- 東海・北陸ブロックインディアカ大会
6月26日 岐阜メモリアルセンター
- 中四国ブロックインディアカ大会
開催日未定 愛媛県
- 九州ブロックインディアカ大会
9月4日 長崎県総合体育館



日本インディアカ協会事務局移転のお知らせ

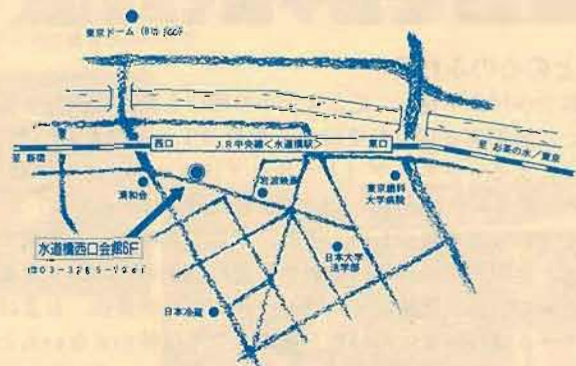
勸日本レクリエーション協会の事務所移転に伴い、
日本インディアカ協会事務局が7月4日より移転しました。
あわせて電話番号およびファックス番号が変りました。
用具の注文は専用電話（ファックス）があります。

【日本インディアカ協会事務局】

〒101 東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6階
電話番号 03-3265-1549 (ダイヤルイン)
Fax番号 03-3265-1253

【用具の注文】

電話番号 03-3265-1335 (日本レクリエーション協会・サービスセンター)
Fax番号 03-3265-1585



日本インディアカ協会創立15周年記念大会

JAPAN FRIENDSHIP INDIACA LEAGUE MATCH



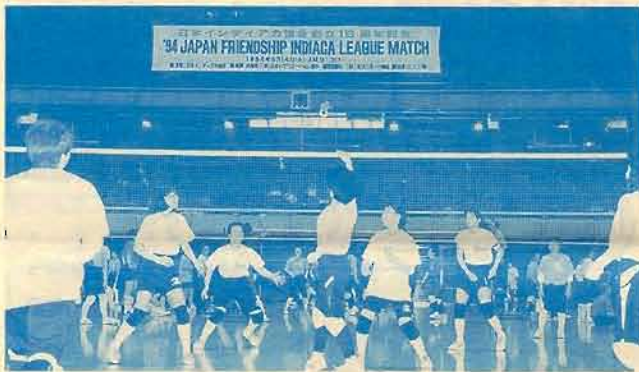
15周年記念大会に参加して

●もう一度参加したい

96チームを6色のTシャツで染めた会場。二人組ジャンケンゲームからの準備体操。これぞ体操と思わせた日体大学生のエキジビション。こころよく流れるクラシックのBGM。どれも新鮮な演出だと思う。

そのうえ色別対抗だが、ひと色16チームのポイント制という順位決定の方法は、ポイントをめぐる競争がエスカレートするゲームが時々みられるなかで、仲間意識のひろがる楽しい方法です。インディアカのイベントや大会を実施していくうえでどの方向に進めば良いのかと迷う昨今、多くのヒントをいただいたようです。

ゲーム終了後、第1コートでは、秋田から沖縄までの6チームが何年も前からの友達のように握手しあう笑顔に出あった時は、審判のこちらまで暖かい心が伝わって、いくつかの反省点などふきとんで、もう一度参加したい!! また新しい出会いをと心から思うのです。 東京都 武石代子



●人との心のふれ愛

大都会へ行く不安と、記念大会への期待を胸に額田町を後にした。翌朝東京体育館受付で、黄色のTシャツを戴いた。色分けによる6グループ（1グループ16チーム）の対抗戦。試合中「えっルールが違うよ」「言われた通りにやろうよ」と、どこまでいっても騒がしい。それが幸しか昨年、千葉県で行われた全国スポレク祭の審判の方達に偶然お会いし、覚えて下さっていた。成績はイエログループが準優勝、おまけに我チームは特別賞に輝いた。県内大会では味わえない人と心のふれ愛、記念大会に参加できたことを幸せと感じる毎日です。もう埼玉県でのオールジャパン・レディース大会へと心は準備中です。最後ですが、大会関係の皆様有り難うございました。 愛知県 わかしやちブラボー 平川愛子

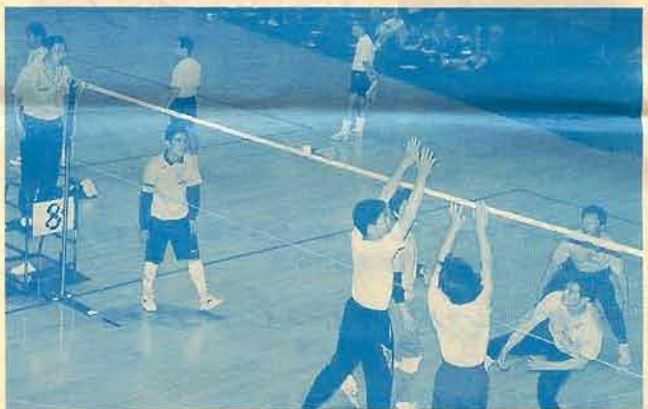
本大会は、日本インディアカ協会の創立15周年を記念して企画されたもので、屋内スポーツの殿堂である「東京体育館」で開催され、北は秋田県、南は沖縄県から総勢96チーム606名の参加を得ました。

今回は、競技は勿論のこと大会のあらゆる場面を通じて親睦・交流を図ることを願い、大会形式も新しい方式を創りだし実践しました。

大会形式は、それぞれのクラスを6グループに分け、全体を6グループにし、各クラスごとに他グループと試合を行い、その合計勝点をグループ対抗（1グループ16チーム）で争うというもので、いつもは寂しい閉会式もほとんどのチームが残り、盛り上がりのある充実したものになりました。

今大会のように、チャンピオンシップ大会ではない親睦・交流大会ならではの、参加者全員で創り上げる斬新な大会が開催され、成功裡に終了できたことは喜ばしい限りです。

また、東京隣接県協会の各指導者が役割分担をし、一致協力して運営にあたってくれたことに深く感謝します。



●本当のレクリエーションゲーム

5月14日、日本インディアカ協会の設立15周年の記念として、全国から若人や、昔の若人約600人が東京都体育館メインアリーナに集い、6色のグループに分かれ、リーグマッチ方式で行う大会が開催された。

我チームは混合の部の「ローズ」グループで試合をすることになった。

試合は25点、2セット先取のラリーポイント制で行われた。僅かのミスが相手の得点となるため最初から気が抜けず、充実感のある試合となった。コートの各チームのレベルは互格であり、お互いに和気あいあいの中で行われ、また、隣のコートで「ローズ」のチームが戦っているとつい声援を送ってしまい、線審をしていてもうわの空。本当のレクリエーションゲームだったと思う。

我チームは3勝0敗だったが、セット数で第2位、総合で「ローズ」は第3位でした。「ピンク」さん優勝おめでとう!

全試合を通じBGMが流され、なごやかな感じでとても良かったです。記念すべき大会に参加させて頂き、また、このような大会を開催して頂いた皆様に感謝致します。

東京都 八王子三休マルベリーチーム



われらインディアカ仲間

千葉県 天子山インディアカクラブ

10年程前に知人の紹介で、誰にでもできる楽しいスポーツだということを知り、さっそく自治会の回覧等で呼びかけて仲間を募集しました。最初は6組の夫婦が中心になっていましたが、最近はおたがいの子供達が大きくなり次第に若い人達が主役になりつつあります。



勝敗よりも参加することをモットーに各種大会に出場して他チームのみなさんと交流を深めております。そして試合の後は家族で「反省会」をにぎやかにやるのが恒例になっています。これからも“みんなのスポーツインディアカ”を楽しんでいきたいと思っています。 代表 田口久男

鳥取県 チャンピオンズ

「チャンピオンズ」は、境港市で唯一のインディアカチームです。結成は92年11月。他のクラブで活動していた主婦達が新しいスポーツとしてインディアカを紹介されたのがきっかけです。

その後口コミや市報への掲載で、メンバーは拡大し現在は12名になっています。「誰でも気楽に参加してゲームを楽しむ」というのが当チームの方針です。



年齢層は20代～40代で、職業も性別も違います。親兄弟、同級生で参加しているメンバーもいて、試合中の気がねのない会話（なじり合い？）が爆笑ものでクラブの雰囲気を感じてあげています。

「チャンピオンズ」は、日常の仕事や生活から離れたリフレッシュできる集まりとして、また誰でも参加できて楽しめるチームとしてこれからも活動を続けていきたいと考えています。

兵庫県 神戸レディース



神戸にインディアカの種子をまき、育て、咲かせたみんなの頑張りの中で6年目を迎えました。

昨年、神戸市内全体が祭りの中という“アーバンリゾートフェア”の「まちかどステージ」に出演し、神戸一の繁華街三宮で、“おしゃれな街に、おしゃれなインディアカ”をとの願いを込めて、街行く人にインディアカを見ていただきました。おかげ様で、いろいろな機関を通じて、問い合わせが多くなり嬉しく思っております。より一層の普及に全力でアタックです。 代表 武市智子

東京都 若竹グループ



若竹グループは、昭和50年青梅市教育委員会主催の「健康・体力づくり教室」が青梅市立第二小学校で4回にわたって行われたのがきっかけでした。昭和58年以降ニュースポーツであるインディアカを中心に練習するようになりました。

老若男女「楽しく、笑顔で、仲間を大切に」をモットーに、さわやかな汗を流しております。 会長 加藤希千代

東京都 早宮インディアカクラブ



当クラブ員ではバレーボールをかじった人が皆無のためかわかりませんが、基礎練習が嫌いで、練習ゲームのみを行っています。試合では必ず女性もアタックをします。そのために珍プレー・好プレーが続出し、体育館は笑いの渦で大騒ぎです。スポーツというよりレクリエーションです。こんな練習なので、都大会では勝ち知らずです。負けても悔しさは残らず、他のクラブとの試合の刺激だけが、こちこち残ります。しかしいつか一勝をしてみたいと皆、心では思っているのですが？ 遠藤英行

インディアカ大会 REPORT

神奈川県 インディアカ協会 創立記念大会

平成6年3月27日
参加72チーム 430名
協会が設立されて第1回の大会であり、各チームの緊張感が伝わって最初のうちは、日頃の練習の成果が出なかったようだが、試合が進むにつれ

神奈川県インディアカ協会

て硬さがとれて声も大きくなり、各コートではそれぞれが笑顔でゲームを楽しんでいた。

また、大会の運営も県大会は、初めての経験であり、審判のルール上のことや、判定について問題があったが、来年は事前に審判員の研修会を行うなど、競技役員の大会に対するいろいろの問題を検討したいと思う。



由利町のインディアカ

由利町のインディアカは、平成4年に公民館のスポーツ教室に取り入れたことに始まる。現在もインディアカ教室として毎週木曜日に続けられていて、今年度で3年目を迎える。若干技術も向上

秋田県由利町 小番幸雄

したことから、県のインディアカ大会にも出場するようになった。まだまだ他の先輩チームには勝たせてもらえるところには到達できないが、会員一同少しずつ上達していることに確かな手応えを感じているところである。現在のところ定期の練習日の他に、県大会が近づくと他町へ交流試合をしに出かけている。親睦を深めることもあり、たいへんに有意義な遠征である。もともと壮年を中心としたスポーツ教室として開催したことに始まることから、年齢層が30~40歳代という会員だけであるので、今後はもっと若い人たちの参加も呼びかけていきたいと考えているところである。



第2回 町民インディアカ大会 東京都五日市町

平成5年6月20日
参加28チーム 185名
五日市町では、インディアカがあまり知られていなかった。そこでこの大会は、町の人たちにインディアカを広めることを目的に行っている。

五日市町インディアカ同好会

そのため、すでにチームで活動している人たちは、チーム以外の人を加えて参加することにした。また、町の広報紙でも参加チームを募り、職場や地域などにも参加を呼びかけ、初心者のためには大会の前に講習会を6回行っている。

大会は、講習会で初めてインディアカにさわったという人も多く、ラリーが続くと喜び、一点取るごとに喜びと、うれしいしさに満ちていた。



「とても楽しかった。この年齢で賞状がもらえるなんて」と、入賞した人たちは興奮しながら語り、「来年もぜひ参加したい」と述べていた。

この大会を機会に新しいチームも結成され、少しずつ五日市町にインディアカが浸透している。



兵庫県 インディアカ協会 設立記念大会

平成6年3月21日
参加28チーム 154名

「ロッキーのテーマ」をBGMに記念大会の幕が開きました。平成5年10月に設立された兵庫県インディアカ協会にとって、この日は、各地でインディアカを楽しんでいた仲間が、初めて一堂に会して、広く爽やかな交流を交えた記念すべき日でした。
男子の部・男女混合の部・女子の部、合わせて28チームと

兵庫県インディアカ協会

まだまだ小規模な大会ですが、「自分たちの手による大会」によせる思いは、誰にも負けません。

試合は、予選リーグ後、順位別決勝リーグに進む方法です。初めて試合をするチームにとってもそれなりに楽しい試合が経験できたことは、ゲーム中どの選手の顔にも表れていました。競技規則の改正時期を控えて、とまどう場面もありました。準備したつもりでもスムーズにいかないこともありました。審判技術など課題はいっぱいですが、でも終了後の参加者の満足顔をみてください。この笑顔を忘れることなく、次の大会では、もっと多くの仲間とこの喜びを分かち合えるように頑張りたいと思います。



インディアカ バカボン大会

春爛漫の4月10日、インディアカバカボン大会も2回を迎えることができました。一個人チーム主催の交流大会ですが、3社の協賛を得ての開催は大変嬉しいことです。

バカボン事務局
米田穂積

初級クラスのコートでは羽根に初めて触れるというチームも参加しましたが、若い独身女性ばかりとあって、3試合目にはラリーができる程になり、また、このチームの応援団も多く、雰囲気がとても良く盛り上がりました。そしてこれからインディアカを練習していきたいとの嬉しい言葉も伺いました。この様なチームを大事にしたいものです。

第9回 青梅市 インディアカ大会

平成6年3月13日
参加100チーム 577名

青梅市インディアカ協会
会長 横山 茂

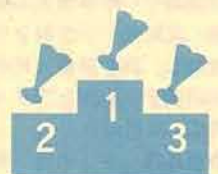
生涯スポーツの一環として、市民がインディアカに対する理解・関心が深まり、盛況になった。1日で3試合を消化するため、18コートを使用、従って市総合体育館12コート・2つの市民センターで6コート、合わせて18コートを使用した。

初心者から熟練者まで、3種目（男子・女子・混成）、9部門（男子1部・2部、混成1部・2部・3部、女子1部・2部・3部・4部）に分けて、参加チームを制限することなく、実施できた。



バカボンでは生涯スポーツであるインディアカの良さを知り、参加されたチームが心から楽しめる大会をと心掛けています。そしてその大会を良いものにするのも、やはり参加されるチームの方々でもあるわけです。

私達主催者は、普段お世話になって交流させていただいているお礼の気持が、バカボン大会を開くきっかけになりました。



トピックス

去る5月14日に行われた、創立15周年記念大会に立ち寄って下さったNHK報道局エグゼクティブ・プロデューサーの杉山茂さんが財団法人日本体育協会発行の「指導者のためのスポーツジャーナル」で、大会のことを記事にしてくれました。以下はその抜粋です。

外国でスポーツを見物してきた方の、共通した印象の一つに「音」がある。その最たるものは、観衆の熱狂が産み出す声援だ。リズムだ。

私も初めて体験した時は、あまりのボリューム、爆発力に圧倒され、呑みこまれそうになった、酔った。

日本のスポーツの場も、声でのエンジョイが盛り上がってきてはいるが“未成熟”、「騒音」に近い応援もまだまだ通っている。

この差、スポーツに親しんだ歴史の長さ短さによるものではないか。

その「音」も時代によって、スポーツ側の活かし方が進んできている。最近ではスキージャンプで、K点を越えると音楽が流される、というアイデアにうならされた。この仕掛け一つで、それまでのジャンプ場のムードはがらりと変わったし、これまで以上に観衆の「音」を誘った。

日本のスポーツ・シーンにも、いい「音」がなくはない。

大相撲の運営は総て柝の音で進行される。打つタイミングの絶妙さもさることながら、さえた音そのものが粋で江戸前だ。

この間のぞいたインディアカの全国大会（東京体育館）では、競技中の場内に薄くクラシックの調べが流れていた。何かの手違いかと思ってみたが、明らかにそれは意識的な「音」であった。日本インディアカ協会の理事長・押塚登貴夫さんが音楽家で、かねがね考えていた“企画”という。

競技者、愛好者からは賛否相半ばした意見が寄せられたそうだが、見てだけの側からすると、ふっと一息ついた時にモーツァルトやシュトラウスが、耳をなでるといのは悪くない。押塚さんはこれからも、曲のイメージを変えながら、続けてみたいといわれた。

社団法人化の進捗状況

法人化について去る6月9日、文部省生涯スポーツ課を訪れ、提出する書類について具体的に指示を受けた。

社団法人定款（案）について指導を受け、概ね了承された。なるべく早い時期に次の書類である平成6年～8年に至る3ヶ年の事業計画、収支予算を立案し提出の予定。

今後の課題としては、都道府県組織（インディアカ協会）の整備であり、平成6年内に40都道府県を整備し、日本協会に加盟を促進しなければならないし、これが法人化の必要条件にもなっているので是非、達成しなければならない。

ターゲットとしては、北陸3県、四国2県、九州4県について積極的に働きかけを行っていく予定である。

関係者のご協力をお願いしたい。

社団法人化基金

ご寄付いただいた方々（前号に掲載されなかった方）

ご協力ありがとうございました

●埼玉県 坂戸市インディアカ連盟



インディアカグッズのアイデア募集

昨年度まで地区大会などで賞品に使えるようにインディアカのグッズ（ネクタイピン、キーホルダーなど）を販売していましたが、お蔭様で完売しましたので、今年度は新しいグッズを作ろうと思っています。そこで会員のみなさんにインディアカグッズのアイデアを募集したいと思います。

ハガキにアイデアを書いて日本協会事務局まで送って下さい。採用された方には、インディアカを進呈いたします。

INFORMATION

新事務所への引っ越しでの慌ただしさも大分落ち着き、オールジャパンレディーズや社団法人化、ドイツでの大会に向けて関係者一同頑張っています。

今年のドイツ旅行は、チームでの参加を歓迎しますので、みなさんのチームでぜひ検討してみてください。